

2 研修プログラム

新時代に対応した高等学校改革（創造的教育方法実践プログラム）の一環として、高知市の中核市研修として位置づけた高知市立高等学校教職員研修を見直した。デジタル技術による産業構造の変化に適應できる人材の輩出により，選ばれる学校として存続していくための施策を提案できる教職員の育成について模索した。

これまでの教職員研修タイムライン

研修での学びを活用するのは個人任せになっていないか，組織として取り入れているだろうか。種まきしたことを，チームで水や日光や養分を与えて果実を実らせることができているだろうか。



【強み】

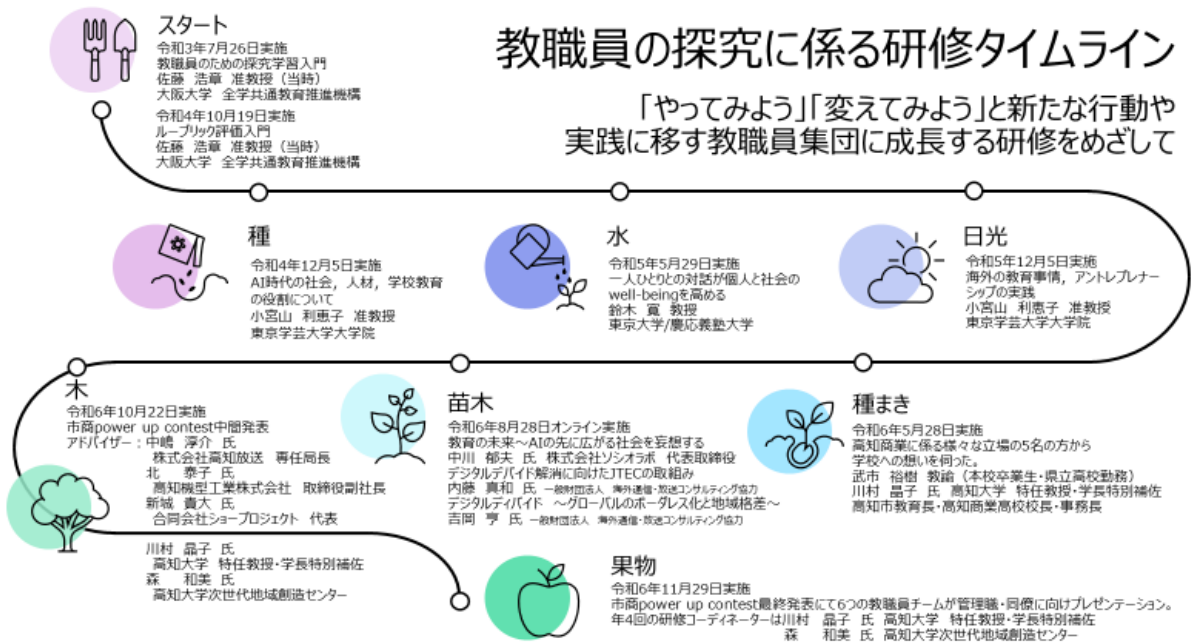
- ・ 高知市の中核市研修として位置づけた高知市立高等学校教職員研修を年4回実施。悉皆研修の受講者は62名。1回の研修時間は約3時間。定時制合同で行う回もある。
- ・ 市立1校の高校であり，人事異動が少なく継続した取組に強い。
- ・ これまでは講義によるインプットの時間が多く，専門性の高い講師の講義内容に受講者の満足度評価も，受講内容の活用率も高い傾向が続いている。
- ・ 全国の商業高等学校においても，全国商業高等学校協会主催の検定の実績や，国公立大学受験に挑戦している生徒数・合格者数が評価されている。
- ・ 高校入試において県下志願者数10年連続1位と，中学生に選ばれる学校として存在できている。

【課題】

- ・ 50代後半から60代の退職を控えたベテラン教職員のスキル継承は急務。
- ・ 採用から退職まで同僚として過ごすため，家族的で友好的である反面，校内人間関係が硬直しやすい。
- ・ 教職員研修のゴール設定について受講者から，「研修による新たな知見を得て，各自で取り入れることで良いのか，それとも新たな学校の取組として位置づけ，全教職員で取り組むことが求められているのか」といった意見が出ている。
- ・ 高知市の子ども数が減少し，伝統ある県立学校，中高一貫の私立学校でも生徒の確保が年々困難になってきており，本校もその影響を受けることは免れない。
- ・ 高知市の未来を担う人材育成をめざしているが，地域，地元企業，自治体，高知市教育委員会と未来のまちづくりにつながる視点での連携には至っていないと感じる。

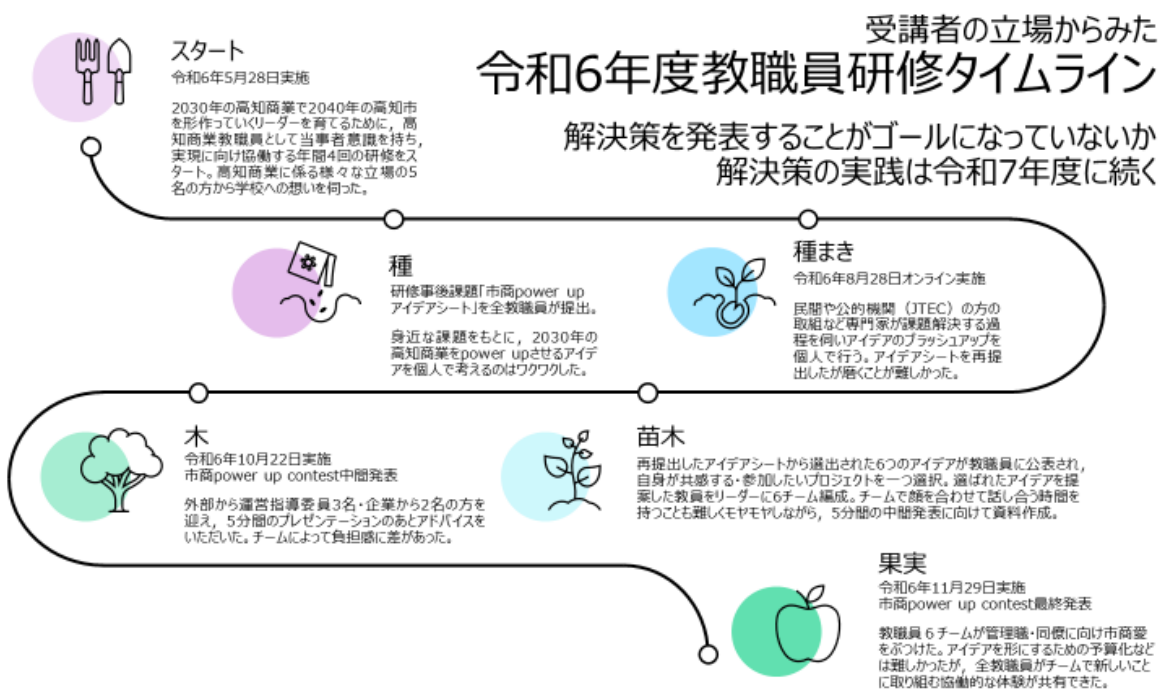
【令和4年度から令和6年度】

「創造性」や「探究性」につながる研修の流れは次のとおりである。

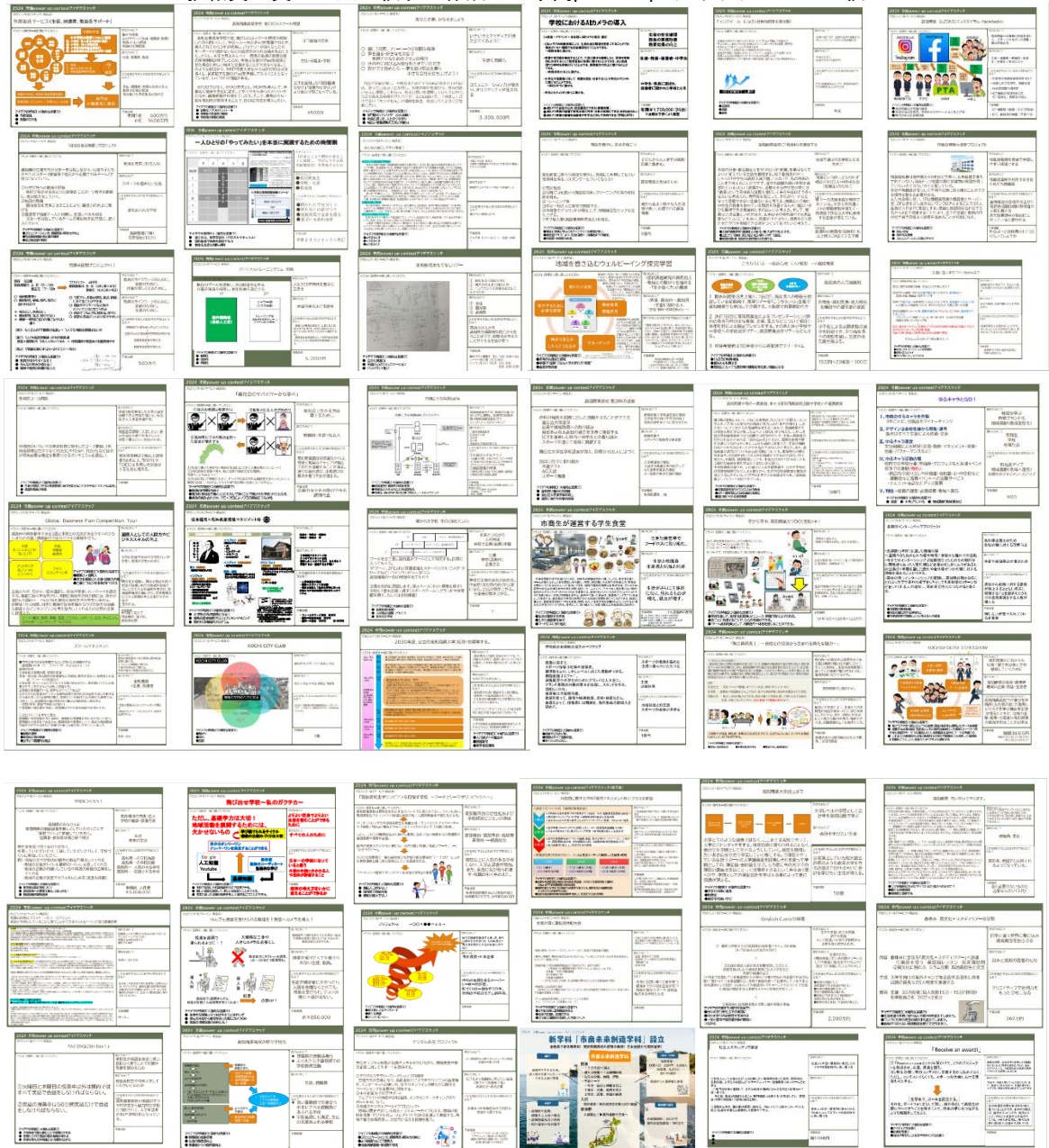


【令和6年度】

どの教職員も生徒も、学校という組織もPower upするために、「対話」を取り入れた研修により、新しいことを「やってみよう」、これまでの当たり前を今一度見直して「変えてみよう」といった「創造性」を発揮できる教職員集団をめざそうと、身近な気付きや不満を課題と捉え、アイデアを出し合い提案に換えていく年4回構成の研修を実施した。



▼教職員全員が一人1枚ずつ作成した市商power up アイデアシート62枚



▼市商power up contest ポスター





▲全日制Ⅰ研修における教職員の様子

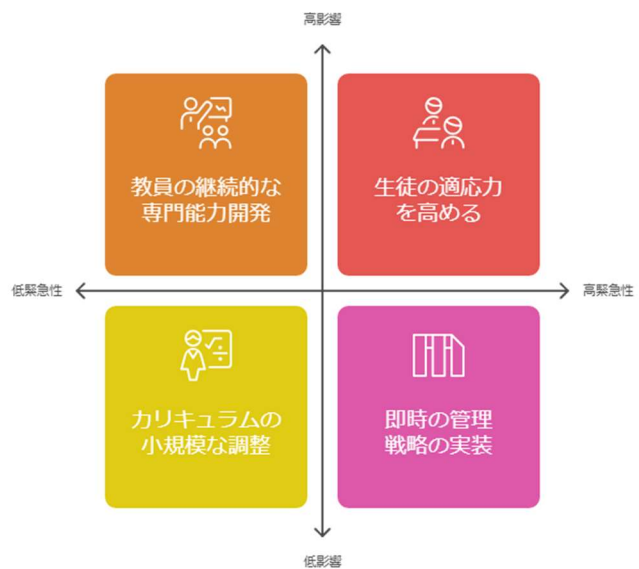
【全日制Ⅰの研修の記録より】

- 今回の研修では、市商Power up contestの目的として、大きく次の3つを挙げている。①VUCA時代のマインドセット②イノベーション力③組織力である。これからの時代は、予測困難で不確実な時代となる。そのために、自分たち教職員も含めどんな生徒を育てるか、今回のグループワークの研修を通して、課題解決型学習のプロセスを実践しながら、担当教科の参考にするとともに、組織として良い環境(誰でも発言できる)を構築していく。今回のワークセッション

②のグループにおけるスピードストーミングについては、時間も短くテンポよくできたので、グループワークの苦手な私でも非常に参加しやすかった。苦手な生徒たちもスピードストーミングは参加しやすいのではないかなと思う。授業でも積極的に取り組んでいきたいと思う。

- 今、自分の持っている知識や知恵を大事にしながら、今後も新たな体験や情報を習得しながら、今に満足することなく幅広い中で自分のやりたいことや思っていることを深めていけるようにしていきたい。今、教職員として非常に問題だと思うことに、「今、ここで」目の前で起こっている現実に対する適応力の低下が生徒のみならず、大人の世界でも感じてしまうことがある。解決に即効性が必要なものもあれば、継続してゆっくりと育てていかなければいけないものがあると思う。その見極めであったり、そこにいる相手への対応力であったり、人を理解していける力をつけていかなければいけない。自分だけの価値で相手を決めるのではなく、相手にも相手の価値がある。それを理解した上で作り上げていく力、人間にしかできない分野が関わっている職種であることを忘れず取り組んでいきたい。

全日制Ⅰ 研修の記録より
教育改革における戦略的優先順位



▲研修の記録の記述内容をNapkin.aiで図解化

【全日制Ⅱの研修の記録より】

- 今回の研修で、講師中川様の「変化をチャンスに！」という言葉が非常に強く心に残りました。教育現場に限らず、変化の激しい毎日についてくだけで必死ですが、チャンスの機会と捉えられる心の余裕や遊び心も必要だと実感しました。デジタル時代に求められる力「気づく力」「感じる力」「考える力」「判断する力」は、新学期にさっそく、3年生たちに向かって伝えたいと考えます。受験する生徒たちに、ICT教育などの最先端の授業や取り組みを通して、どんな力をつけなければならないかという点を問うてもいいと思います。研修も書く振り返りから入力する振り返りへ。授業も板書からプロジェクターに写す授業へ。変化は気づかないうちにどんどん進んでいます。変化に柔軟に対応できるように、自分自身も4つの力をしっかり養っていきたいです。
- JTECの内藤様・吉岡様のお話を聴いて、発展途上国のデジタルデバイドの解消に向けた人材育成プロジェクトを実現するためには、研修→共同研究→基礎調査→パイロットプロジェクト→普及実証といったプロセスを踏むことの大切さを再確認できた。
また、どのようなデジタル分野の課題を解消したいのか課題を絞り込む力が求められる。ラオス学校建設活動の推進においても取り組む内容を「定義」したり、誰にどうなってほしいのかを明確にしプロジェクトを推進したい。
- 教員が世界に目を向けることで、生徒の視座も高くなり、発想力や想像力もより良いものになると感じた研修であった。高知市立一校・高知県・四国と孤立した島にいる私たちももっと外を見て、世界を見て、ビジネスを創りあげていかなければならない。未

来を担う生徒にはその力をつけていく必要があるし、その育成のために私たち教員は勉強、挑戦し続けなければならない。一大イベントである文化祭も校内での販売活動を目指してはいけないうちだけの活動になってしまっはいけない。学校行事もイチから見直す必要があるのではないかと。本日の話を聞いて、総合マネジメント科はビジネスプランの作り方を教えていけると思ったし、情報マネジメント科やラオス学校建設活動はデジタルデバイスについて考えることもできると思った。世界を知ること、自分たちの活動も変わっていくということを念頭に置いて指導していきたいと思う。



▲研修の記録の記述内容をNapkin.aiで図解化

本校は創立126年、昭和45年の大谷校舎移転から50年以上が経過し、校舎・施設設備の老朽化が目立ち、修繕が必要な箇所も多いことから、「施設というハード面の見直し」「提供できるソフトの内容」「社会の変化に対応した新しい価値の提供」といった視点のアイデアが多く見られた。リーダーのプロジェクトに賛同する教職員を募る形で、A～Fの6チームを編成した。アイデアを具現化するために協力者を巻き込むことは大人でも難しい。

放課後も部活動や検定や委員会活動にと、頑張る生徒の「食」をサポートしたいとの想いから、生徒アンケートをもとに食堂への提案も視野に両者のWINを探ってみた。

71

Bチーム KOCHI CITY CLUB

高知市に総合型地域スポーツクラブの法人化を進めること、高知商業高校をそのスポーツ拠点として整備することにより、地域スポーツコミュニティができ、学生や社会人選手の競技力向上にもつながり、高知市民の避難所としても機能できるのではないかと。



高知県のサッカーを強くしたい スポーツの価値

スポーツの語源

●ラテン語
Deportare (デポルタレ)
離れたところに運ぶ 一時的に離れる
休養 紙面 気晴らし

●中世フランス語
desport (デスポール)

●英語
disport sport (17世紀以降)

スポーツの語源

【現代における意味】

「運動、競技、娯楽、楽しみ、気晴らし、冗談」「娯楽や運動の目的で主に戸外で行う身体的活動の総称」等の意味する

強い（勝つ）から 愛されて

愛される 強くなろう

目次

- 01 高知市スポーツの現状
- 02 地域と世代のハブになる
- 03 環境が人を育てる

Table of Contents

高知市スポーツの現状

01

01 高知市スポーツの現状

運動・スポーツをしなかった理由

「学業や仕事、育児が忙しくて時間が取れないから」と回答した方が46.3%と最も多く、年代別にみると、30代・40代の割合が最も高く、回答が「忙しい」と回答している。

01 高知市スポーツの現状

運動・スポーツの実施場所

運動・スポーツの実施場所については、「運動場、運動場、河川敷など」37.8%や「自宅」33.8%で最も多いと回答した割合が最も多く、年代別にみると、30代・40代の割合が最も多く、回答が「自宅」の割合が最も多いと回答している。

01 高知市スポーツの現状

運動・スポーツを実施する際に不便に感じている点

運動・スポーツを実施する際に不便に感じている点については、最も多い「照明」が45.8%と最も多く、年代別にみると、30代・40代の割合が最も多く、回答が「照明」の割合が最も多いと回答している。

01 高知市スポーツの現状

運動・スポーツをする相手

運動・スポーツをする相手については、「ひとりで」最も多い割合が45.8%と最も多く、年代別にみると、30代・40代の割合が最も多く、回答が「ひとりで」の割合が最も多いと回答している。

01 高知市スポーツの現状

環境・スポーツをする環境が悪い

●仕事・家事・育児が忙しい
●運動施設が少ない、不便
●運動・スポーツする仲間がない

01 総合型地域スポーツクラブの法人化

●学校グラウンドの人工芝化

02 地域と世代のハブになる

フィジカル・メンタル・社会

人海に身を投じて健康や生活の質を向上させるため、持っているべき基本的な要素

（日本スポーツ振興センター）

02 地域と世代のハブになる

非日常的体験は認知度・効果あり

02 地域と世代のハブになる

総合型地域スポーツクラブの法人化

●学校グラウンドの人工芝化

03 環境が人を育てる

環境が人を育てる

03 環境が人を育てる

TOTOの助成金を活用した人工芝

03 環境が人を育てる

避難所としての活用

03 環境が人を育てる

①安心・安全
②部活動の負担軽減
③地域との繋がり
④避難所としての機能

Cチーム 週4プロジェクト

高知商業教職員が、健康にイキイキと生徒の成長に関わり、質の良い授業を提供し続けるには、少し工夫がいるのではないだろうか。今の私たちの生活を充実させることで、教職のやりがいや高知商業の魅力が向上するのではないだろうか。

みなさんの働いた時間を教えてください

Q1 この数字は何？

平日働いている時間 **11時間**

Q3 この数字は何？

土日祝に働いた時間 **7時間**

そもそも16・18単位って何ですか？

調査期間

3週間

毎日働いてる時間 **11時間**

お休みした日数 **8日間**

週4プロジェクト

主任14h・副主任16hの持ち時間
一人2h減×58名＝**116h減単位**

★教材研究、採点にあてよう！
★体・心のメンテナンスに充てよう！
★趣味やキャリアアップに充てよう！
★休めそうな時は休もう！

調査のルール

- 学校での時間
- 在宅ワーク時間も
- 昼休みは勤務時間

Q2 この数字は何？

時間外に何やっていますか？

背景とゴール

私たちの「小さなやりたい」を実現する

調査対象

チームC 14名

国2・英2・英3
英2・英5

ちゃんと休んだ日数 **3日間**

21日間

週4プロジェクト

大住ver.(副主任 16単位)

プロジェクト10の約束

実現可能性①

TT授業の見直しができるか

32h～116h減

→ 1人に活用しよう！
→ 生徒に還元できる？

デメリット

- ＊ 時間割調整の負担
- ＊ 授業の崩れ
- ＊ 誰かに偏りが生じないか (特定の人・実習助手の先生など)
- ＊ 問題発生時の対応が遅れる
- ＊ 当人・該当者が不在の場合が増加
- ＊ 自習依頼が集中する
- ＊ 面談や諸会議の集中

実現可能性②

1人2hの授業減

18h～36h減

→ 市の財政状態に悪い
→ すぐには実現できない

実現可能性③

7限目を見直し (2h×24クラス＝48h減)

→ 1人2h減
→ IC授業の推進
→ カリキュラムの見直し

メリット

質の良い授業
心と体の健康
自分の時間の確保
(キャリアアップ・休息・健康・家族・趣味・健康へ)

生徒への還元・業務の正確性
職場の働きやすさ

2024 市商power up contestアイデアスケッチ

プロジェクト名(サービス・商品名) **授業日4日プロジェクト！！**

【現在】

教員授業日

- ・主任15～16h
- ・副主任17～18h
- 毎日授業あり
- 教材研究、研修、採点、部活動に追われる毎日

※休みたい。休めない。
※教材研究、採点が終わらない
※研修・・・時間に追われ、身にならない。嫌々。

【プロジェクト】

授業4日間+1日フリー-Day

教員授業日

- ・主任12h (3h×4日)
- ・副主任16h (4h×4日)

【フリー-Dayからできること！】

- 教材研究、採点、研修に充てることができる！
- 検診やマッサージなど、体のメンテナンスに充てることができる！
- 休めそうな時は休める！堂々！
- 部活動も目処がつくので任せやすい！

案1 → たくさんのTT授業の見直し → 1人でも可能な授業はないか
案2 → 1人2h程度、授業減った分の教員増
教員+期付58人×2h=116h → 教諭や時講を2人程度増やす
案3 → 7限目を無くす (2h×24クラス=48h減)

アイデアの特徴3つ(端的な言葉で)

- 教員が休みやすくなる！
- みんなが休みが増える！
- 趣味や勉強・健康に時間が使える！

案1 → 30h～32h減
案2 → 36h補充
案3 → 48h減 **計116h！**

何のために？
教員のライフワークのために。
家族のために。
仕事で楽しくなるために

誰のために？
教員のライフワークのために。
家族のために。
生徒のために。

これを実行すると2030年の学校はどうなる？

教職員が仕事を楽しくようになる！
↓
生徒のために教材研究等、時間がとれる！
↓
受験希望者数が増える！
↓
教員希望者数が増える！

予算規模 **500万円**

Dチーム 地域を巻き込むウェルビーイング探究学習 ～市商で全員“郷育”～
(詳細は次頁の補足資料)

課題先進県から 探究先進県へ

1. 目指すべき姿

プロジェクト目的

高知県民として
課題先進県
×
豊富な地域資源

↓

探究の宝庫

地域を巻き込む
ウェルビーイング
探究学習

～市商から**全員“郷育”**～

プロジェクト目的

深い郷土愛を持ち、
未来社会を切り拓く
創造力の醸成ができる
持続的コミュニティ形成

高知商業高校として
実社会と繋がる学び

↓

地域コミュニティ拠点

Contents

0. 課題先進県を目指す姿
1. ウェルビーイング班が目指すべき姿
2. 目的設定の背景
3. プロジェクト案
4. キーワード

2. 目的設定の背景

高知県だからこそ
高知商業だからこそ

3. プロジェクト案

ウェルビーイング探究学習

創りたい未来

実行するために
必要な現実

再発見
再発見
再発見

何ができるか
したらどうなるか

グループ

プロジェクト案③

高知商業探究拠点化

食堂を地域
カフェに

メタバース
環境充実化

学びの循環拠点に

プロジェクトを通して

関わる人**全員**が**教員**
郷土愛を**育む郷育**

プロジェクト案①

全員探究学習の制度化

生徒
教員 地域

事業の多面化・視点の多角化

プロジェクトをはじめのために

- ・文科省プロジェクトとして提案
→カリキュラム革新
- ・地方行政・高知市との連携
→市としてのインセンティブ設定
- ・教職員研修・一般企業研修の撤廃
→探究学習の制度化

プロジェクト案②

外部要因の導入

卒業生や観光客等
外部要因に対する
インセンティブを

“当たり前”ではない視点

4. キーワード

プロジェクトを通して

ワクワクする 市商を、全員で

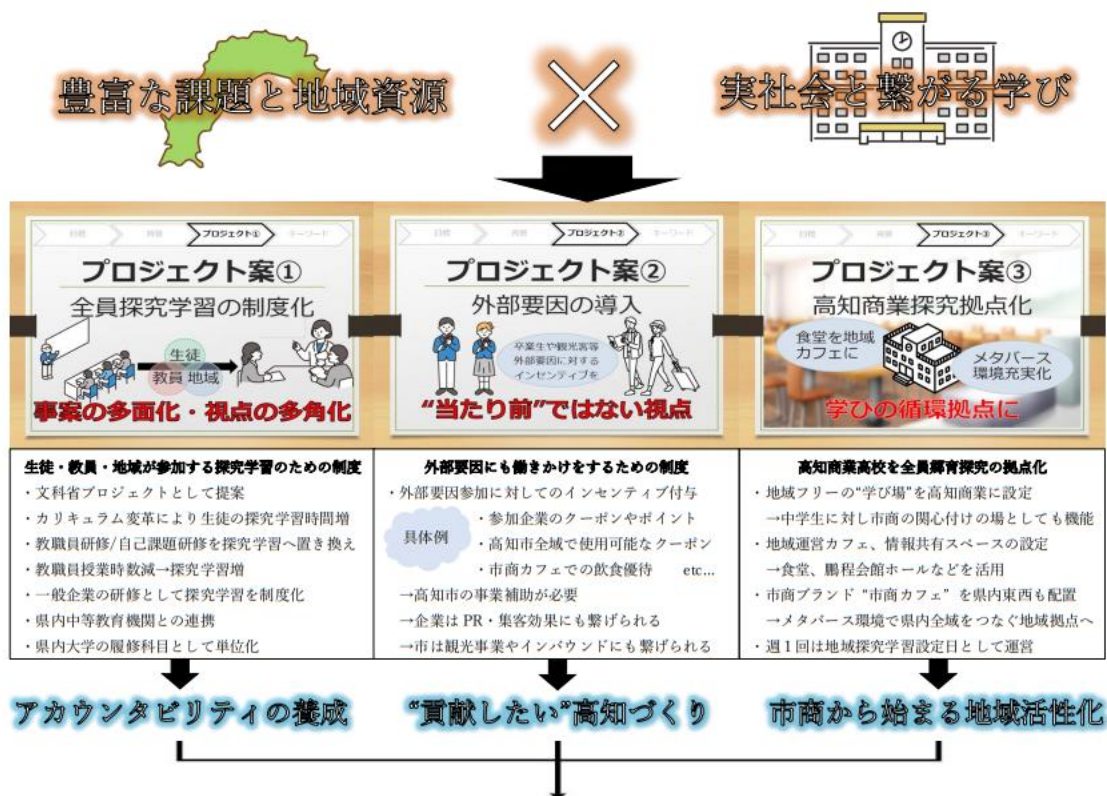
地域を巻き込むウェルビーイング探究学習 ～市商から全員“郷育”～

目的：深い郷土愛を持ち、未来社会を切り拓く創造力の醸成ができる持続的コミュニティの形成

目標：高知商業高校をウェルビーイング学習拠点とし、高知に関わる全員が参加する制度づくり

背景：探究学習とは「**自ら課題を設定**し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と**意見交換・協働**したりしながら進めていく学習活動」のこと。教員から生徒に与える「教育」としての探究学習で視野を狭めていないか。調査・分析のみで終わってしまっていないか。課題の解決に向けて共有と協働をするためにも、高知に関わる多方面からの視点で、学びを享受して、広げていくべきではないだろうか？

そこで“高知だからこそ”“市商だからこそ”を活用した、「**全員郷育**」を計画した。



深い郷土愛を持ち、未来社会を切り拓く創造力
の醸成ができるコミュニティ“市商”へ

Eチーム つなぎつながる高知の未来プロジェクト こうち共創Link

持続可能なまちづくりと人材育成に向け、産官学が一体となった環境づくりの実現
現在高知商業高等学校では、各科コースのテーマをもとに年間いくつものプロジェクトが同時進行していく。生徒の「やってみたい」を教職員だけでサポートするには「限界がある」。校友会（卒業生組織）や外部講師、外部協力企業・団体など、学校に関わるネットワークを「見える化」することができれば、情報管理、人脈の効率化、関係性の維持、コラボレーションの促進、戦略的分析にも生かせるのではないだろうか。



01 現状

こんなことしたいけど、どこに連絡すればいい？

生徒の「やってみたい」を自分だけでサポートできない...

高校生と繋がる機会があれば...

学生団体、ゼミナール活動で高校生の力を借りたい！

高校内でCOOを実現します！

募集中！

ニーズ×ニーズ
ニーズのマッチングで地域人材を育成

構想案

こうち共創Link

印刷 完備
Cafeコーナー
プリンター
人材募集
ミーティングスペース

プラン概要

商品開発
プロフェッショナル
進路実現
部活動

企業
校友会
卒業生
大学生
行政
自治体

効果

高知商
生徒のスキルアップ
教員の負担軽減
一企業や行政、大学からのサポートを受け、地域社会に参画することで実践的なスキルとシビックプライドの育成
一ミーティングスペースや学習環境の施設整備充実化

県内大
県内企業や行政とマッチングする機会
一県内企業や行政との連携活動やマッチングは、学生団体の活動、就職活動に活かすことができる一高校生のネットワークを築くことで人手不足解消

県内企業
県内の学生とつながり人材の確保へ
一県内の学生とマッチングすることで、採用に向けたつながりを築くことができ、人手不足の解消につながる
一学生と地域課題に取り組むことで企業イメージアップにつながる

行政・自治体
行政の質向上に向けた企業・学生とのつながり
一県内の企業・学生とつながることで、政策実現に向けた柔軟なアイデアを取り入れることができる
一持続可能な地域づくりに向け地域と一体となった活動に取り組める

01 現状

生徒の「やってみたい」を教員だけでサポートするには、

限界がある

こうち共創Link

つながる高知の未来プロジェクト

プラン概要

人脈をデータベース化

出逢いの証=名刺

効果

情報管理
関係性の維持
戦略的分析

人脈活用効率化
コラボレーションの促進

04 効果

持続可能なまちづくりと人材の育成に向け、産官学が一体となった環境づくりの実現

Fチーム デジタル共生プロジェクト

市商マネジメント力のなかの一つに、ICT活用力がある。スポーツ分野で実践的な活用を推進するとしたら…データ分析やアナリスト養成、アーカイブ化などはどうだろう。

デジタル共生プロジェクト



市商マネジメント力

- ・コミュニケーション力
- ・課題発見・課題解決力
- ・プレゼンテーション力
- ・講義理解力
- ・ICT・英語理解力
- ・察する力
- ・失敗から学ぶ力

市商マネジメント力

- ・コミュニケーション力
- ・課題発見・課題解決力
- ・プレゼンテーション力
- ・講義理解力
- ・ICT・英語活用力
- ・察する力
- ・失敗から学ぶ力

タブレット使うだけ？

より実践的な活用力を！

地域の資料
アーカイブ化

運動部活動における
マネジメント

地域の資料アーカイブ化

地域の歴史や文化、伝統をデジタルアーカイブ化する。

1. 地域の資料を収集
2. デジタル化
3. ウェブサイトやSNSで発信

⇒地域の魅力再発見
& 次世代への伝達



運動部活動におけるマネジメント

練習や試合の記録、準備・片付け、補助など

動作分析、戦術分析など

コンディショニング、生活管理、栄養管理、メンタルケア など

総合的なサポートで成果を上げる！
⇒勝つだけでなく、怪我の予防も



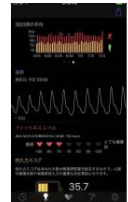
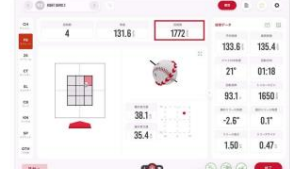
運動部活動におけるマネジメント

練習や試合の記録、準備・片付け、補助など

動作分析、戦術分析など

コンディショニング、生活管理、栄養管理、メンタルケア など

総合的なサポートで成果を上げる！
⇒勝つだけでなく、怪我の予防も



運動部活動におけるマネジメント

練習や試合の記録、準備・片付け、補助など

動作分析、戦術分析など

コンディショニング、生活管理、栄養管理、メンタルケア など

総合的なサポートで成果を上げる！
⇒勝つだけでなく、怪我の予防も



誰のためのプロジェクトか

- ・ICTをより実践的に学びたい生徒
⇒将来情報系の進路希望者
⇒スポーツ分析に関わりたい人
- ・各運動部活動の生徒
- ・サポートを通して成長したい生徒 など

プロジェクトの効果

- ・各運動部の競技力の向上
- ・怪我の予防
- ・スポーツへの多様な関わり
- ・トレーニングデータの蓄積
- ・ICTリテラシーの向上
- ・マネジメント力の向上

予算

例) Rapsodo の場合

購入 : 約50万

レンタル: 約2.5万/週



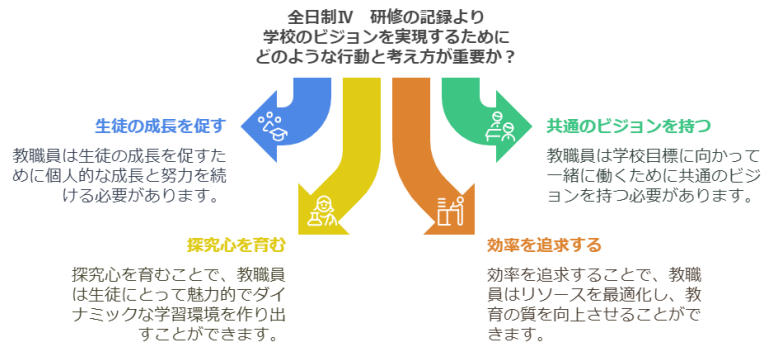


▲全日制Ⅳ研修における教職員の様子

【全日制Ⅳの研修の記録より】

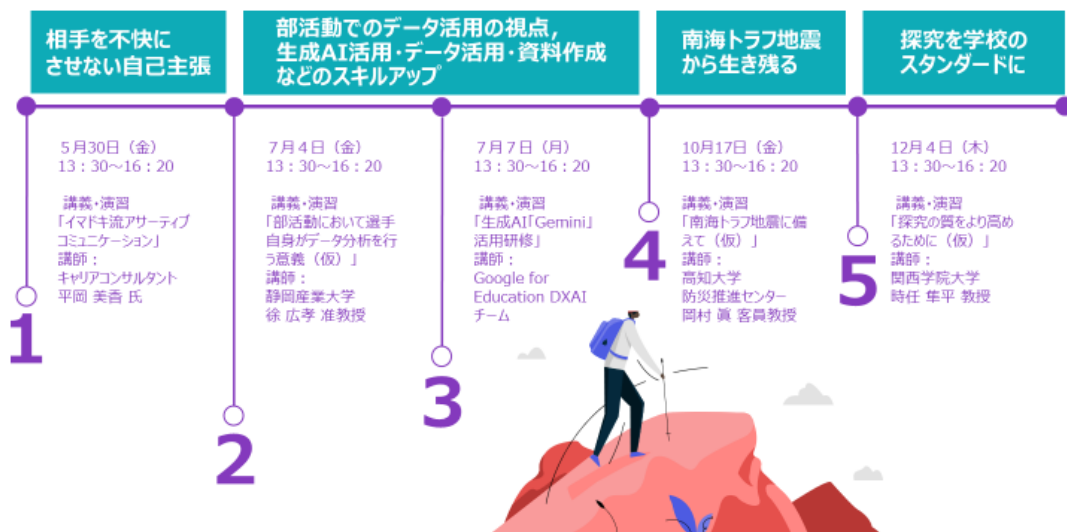
- 全員が、人任せでなく、自分はこれに取り組みたい、というメッセージを持って企画していく力を持つ。生き生きとした姿を生徒に見せる安定感を成長させていく。
- 目指す学校の姿を実現するためには、学校の目指す姿のために、教職員一人ひとり何ができるか、それは生徒の成長につながっているかを考えることが最も重要であると考えている。
- 社会の最新情報を仕入れ続けること、目の前の生徒と向き合うこと、そしてその上で教育を考えることだと思う。そして本日の研修を聞きながら、「もっと面白くしてやろう」という遊び心、好奇心が重要だと感じた。生徒も教員も楽しければ自走していくはずである。そういう場をどうやって生み出すか考えたい。

▼ 研修の記録の記述内容をNapkin.aiで図解化



令和7年度 高等学校教職員研修

研修を通して、何を解決したい（身に付けたい）のか？



体験的な場面や対話的な場面を設けた次年度研修，ワクワクする市商を，全員で！

3 ふるさと納税に係る調査・研究

(I) 高知市財産政策課への聴き取り

日 時：令和6年3月26日(火) 15:30～16:30

場 所：高知市役所 本庁舎

対応者：高知市財務部 財産政策課 ふるさと納税担当係長

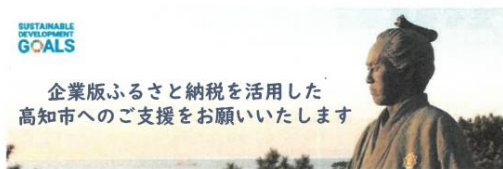
高知市財務部 財産政策課 主査 計2名

訪問者：高知市財務部 資産税課 課長(4/1～事務長)

高知商業高等学校 研修主任(4/1～主幹教諭) 計2名

内 容：企業版ふるさと納税制度のしくみについて

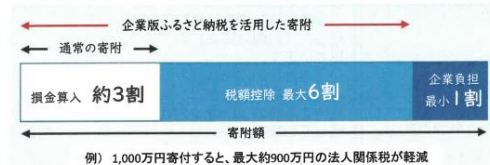
- ・ ふるさと納税には、ガバメント型クラウドファンディング、個人型クラウドファンディング、企業版ふるさと納税などがある。
- ・ 企業版ふるさと納税は、総務省が認定した自治体の事業に対し、企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みである。
- ・ 本市は「高知市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が該当する。
- ・ 高知商業は「高知市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標2 新しい人の流れをつくる、⑧ 若者の地元定着の促進、⑧-2 高知商業高等学校の教育の充実と明記されており、企業版ふるさと納税を活用する対象として該当する。
- ・ ⑧-2 高知商業高等学校の教育の充実の【主な事業】としては、部活動等推進事業(ラオス学校建設活動、市商祭へGO、地元企業との商品共同開発等)と記載している。
- ・ 本校が計画する事業内容については、政策企画課に提案した後、審査により新規事業又は継続事業として判断される。



企業版ふるさと納税(正式名「地方創生応援税制」)とは、国が認定した地方公共団体の地方創生の取り組みに対し、企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する制度です。

企業側では各地域の取り組みに貢献して、法人税の軽減効果が得られるメリットがあります。

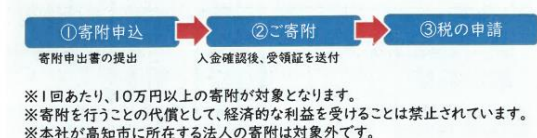
●企業版ふるさと納税の税控除の内訳



●企業版ふるさと納税の上限基準

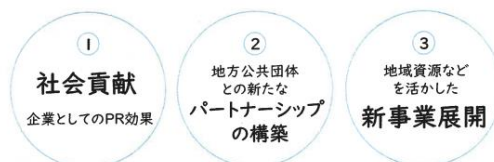
税目ごとの特例措置	①法人住民税	②法人税	③法人事業税
	寄附額の4割を税額控除 (法人住民税法人税割額の20%が上限)	法人住民税で4割に達しない場合、その額を税額控除。ただし寄附額の1割を限度 (法人税額の5%が上限)	寄附額の2割を税額控除 (法人事業税額の20%が上限)

●企業版ふるさと納税の寄附の流れ



●企業側のメリット

法人税の軽減効果以外にも企業のイメージアップなどの効果が想定されます。高知市では感謝状の贈呈や広報誌及びホームページへの掲載など、ご寄附をいただいた企業様の情報発信を積極的に行っています。



高知市では、いただいた寄附金は、鏡川流域関係人口創出事業、長浜・御堂瀬・浦戸地域振興計画推進事業、高知市民図書館図書資料購入事業の3事業に活用させていただいています。これらの事業以外にも「高知市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲載された事業は企業版ふるさと納税の対象となる場合がありますので、まずは下記の問い合わせ先にご連絡をいただければ幸いです。

お申込み・
問い合わせ先

高知市財務部財産政策課
〒780-8571 高知県高知市本町5丁目1番45号
TEL:088-802-5688 FAX:088-823-9568
E-mail: kc-051700@city.kochi.lg.jp

(2) 高知県教育委員会事務局 私学・大学支援課及び高等学校課への聴き取り

日 時： 令和6年5月 31 日(金) 9:30～10:30

場 所： 高知県庁 西庁舎

対応者： 私学・大学支援課 チーフ(私学支援担当), 主事
高等学校課 チーフ(総務担当), 主幹 計4名

訪問者： 高知商業高等学校 事務長, 主幹教諭 計2名

内 容： ふるさと納税を活用した学校支援制度について

- ・ 県議会6月補正にて承認されれば実施となる。
- ・ 高等学校課が県立学校(中学校・高等学校・特別支援学校)に対して示している「令和6年度 高知県プロジェクト型ふるさと母校応援事業募集要項」(A4両面印刷8頁)をもとに説明いただく。
- ・ 趣旨は教育環境の充実や学校の魅力化に資する取組の促進。
- ・ 特徴はふるさと納税活用により全国から寄付を募ることが可能。
- ・ 対象となる活動例は, 海外訪問費・備品購入費・修繕費など。
- ・ 県立学校からいくつかの事業計画の提出があるが, 1校につき1プロジェクトなどの制限については今後検討される。
- ・ 私立学校(県内 12 校)のうち, 5校から提出される予定である。今年度は支援制度実施初年度であることもあり, 準備が間に合わず様子を見ている学校もあるが, 各学校が予算を獲得していく流れは今後も進むと考えられる。
- ・ 県の役割は, 事業計画の審査(趣旨, 対象経費の妥当性)と自治体に関わることにより, ふるさと納税制度の活用が可能となることにある。県は自治体の予算を使用せずに, 学校の経済的な支援ができることがメリットである。
- ・ このクラウドファンディングは, 目標金額に達しなければ寄付金を受け取ることはできない「All or Nothing 型」である。
- ・ 事業規模は, 下限額 50 万円～上限額 200 万円を想定し, 目標を超える寄附があった場合は, 学校が変更計画を提出する。
- ・ いただいた寄付は年度内に執行(全額活用)する。
- ・ クラウドファンディングの募集期間は 10～59 日間で設定するが, 募集期間の終期の最終期限は 12 月 15 日までとする。
- ・ 県からの返礼品はなく, 学校から対価性の低いインセンティブ(お礼の手紙, 感謝状等の送付や学校のホームページに実施した事業を掲載すること)を設定することは禁止しない。
- ・ クラウドファンディング事業者は県外(東京)の企業を予定している。
- ・ 県立学校から高等学校課に提出する書類は以下の2種類。

(様式1) 令和6年度高知県プロジェクト型ふるさと母校応援事業 事業計画(新規・変更)

(様式2) 令和6年度高知県プロジェクト型ふるさと母校応援事業 実績報告書

(3) 全国で企業版ふるさと納税に取り組む学校に関する新聞記事

(オーテピア高知図書館データベース 朝日新聞クロスサーチによる検索)

- タブレット授業に配慮，机の面積を広々1.2倍 館山の4小中学校で導入 / 千葉県 2022年09月24日 朝刊 ちば首都圏・1地方 027ページ 00407文字 写真図表有
- 神山まるごと高専，来春開校 起業家精神育成へ 文科省審議会，設置認める答申/徳島県 2022年09月01日 朝刊 徳島全県・1地方 019ページ，01195文字
- 音楽は平等だ，ベネズエラ発「エル・システム」大阪に拠点 公立校に無償で楽器提供・プロのオケ指導/大阪府 2022年05月26日 夕刊 1総合 01ページ，01926文字
- 学校施設，木が育む 地元産材で金城中改修 浜田 /島根県 2021年06月03日 朝刊 島根・1地方 017ページ 00639文字 写真図表有
- 企業版ふるさと納税を募集 高野町，学び交流拠点整備に /和歌山県 2021年04月14日 朝刊 和歌山全県・1地方 023ページ，00451文字
- 夕張高，魅力アップ始動 学習支援へ公設塾・英会話の一貫教育 /北海道 2018年04月24日 朝刊 北海道総合 032ページ 01236文字
- 英会話一貫教育，夕張高元気に 小学校からオンラインでマンツーマン指導 /北海道 2017年09月06日 朝刊 北海道総合 030ページ 00868文字 写真図表有

(4) インターネットによる検索

文部科学省ウェブ・サイト>ふるさと納税を活用した自治体・学校法人の取組事例集

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shiritsu/furusato_00002.html

内閣府地方創生推進事務局>企業版ふるさと納税対象事業（キーワード別）

https://www.chisou.go.jp/tiiki/kigyou_furusato/search_index.html

内閣府地方創生推進事務局>企業版ふるさと納税ポータルサイト

https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/kigyou_furusato.html

内閣府地方創生推進事務局>地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）の対象事業の認定について

<https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/pdf/h301109press.pdf>

内閣府地方創生推進事務局>公表資料>令和4年度寄附実績一覧（PDF/1,719KB）

https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/pdf/R04zisseki_itiran.pdf

内閣府地方創生推進事務局>自治体の事業の認定は

https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/kigyou_furusato.html

内閣府地方創生推進事務局>各事業の内容や，応募方法は>分野別の寄附募集事業

https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/portal/sp_kifu/index.html

(5) 高知市財産政策課との協議

日 時： 令和6年6月 26 日(水) 9:00～10:00

場 所： 高知市役所 本庁舎

対応者： 高知市財産政策課 課長, 室長, 係長, 主査 計4名

訪問者： 高知商業高等学校 事務長, 主幹教諭 計2名

内 容： ふるさと納税を活用した学校支援制度の高知商業版について

- ・ 3月末に制度の仕組みについてお話を聞かせていただいております, 今回はその後の協議をお願いします。
- ・ 「令和6年3月 26 日の高知市財産政策課への聴き取り」と「令和6年5月 31 日の高知県教育委員会事務局 私学・大学支援課及び高等学校課への聴き取り」の内容について情報共有する。
- ・ 資料として「新時代に対応した高等学校改革推進事業(創造的教育方法実践プログラム)」の令和4年度と令和5年度の事業報告書及びスクールガイドを持参する。ふるさと納税の支援者に, 生徒の活動の様子を冊子等で知らせることは, 生徒の生き生きとした活動の様子や, 成長の様子が伝わってくる寄付者に喜ばれるフォロー及びプロジェクトに係る広報になり得る。自身の寄付がどのように役立ったのかを実感できるのではないだろうか。
- ・ ふるさと納税を活用した学校支援制度の高知商業版について事業計画(案)をもとに説明し, 財産政策課よりご助言をいただく。
- ・ 事業目的は高知商業高等学校教育の充実であり, 高知市の活性化や地方創生といった方向性とも合致している。
- ・ 事業内容は高知と社会に貢献する人材を育成するための教育活動の充実で良い。企業・外部講師との連携による体験的な学びの実施や企業と連携した高知市を盛り上げる商業の学びを活用した取組はイメージしやすい。
- ・ ふるさと納税の活用により全国から寄付を募ることが可能。
- ・ 企業版とクラウドファンディング型の併用も考えられる。
- ・ 企業版は決裁権がある企業のトップに決断してもらう必要がある。高知商業全体への継続的な支援として企業版は合う。高知市に拠点がある企業が対象から除かれるのは厳しいのでは。
- ・ クラウドファンディング型は募集期間が 90 日という制約がある。(例えばスーパー戦隊デカレンジャーでは) 明確な支援を募り, 短期間で目標を達成し金額を引き上げたが, 目標金額に達した時点で募集を打ち切るという方法も選べる。企業版ふるさと納税に比べ, クラウドファンディングは個人が少額から寄付できるため支援しやすいという利点がある。
- ・ 政策企画課に本事業の新規性の可否について判断を仰いでみてはどうか。それにより, 新規と判断されるとふるさと納税を導入できる。
- ・ 企業版ふるさと納税の税制優遇措置は令和6年度まで。令和7年度までに延長されるか否かで集まる寄付金額に影響がある。
- ・ 財産政策課としても相談や広報等協力していく。

(6) 高知市教育長への進捗報告

日 時：令和6年7月5日（金）10:00～10:30

場 所：高知市たかじょう庁舎

対応者：教育長、両教育次長、学校教育課 指導主事 計4名

訪問者：高知商業高等学校 事務長、主幹教諭 計2名

内 容：① ふるさと納税を活用した学校支援制度の高知商業版について
② 高知市観光魅力創造課から提案があった龍馬生誕 190 年記念事業に係るプロジェクションマッピング企画について

(7) 高知市政策企画課との協議

日 時：令和6年7月 29 日（月）10:00～10:30

場 所：高知市役所 本庁舎

対応者：室長、地方創生・れんけいこうち広域都市圏推進担 計2名

訪問者：高知商業高等学校 事務長、主幹教諭 計2名

内 容：① ふるさと納税の新規性の判断や起算日等の情報提供
② 今後の動きについて確認
③ 高知商業に寄附をしたいという希望を持った企業を具体化

(8) 県立高校（高知県ふるさと母校応援制度）の取組状況調査

日 時：令和7年1月 27 日（月）

問合方法：メール

対 応 者：高知県教育委員会事務局高等学校課 総務担当

質 問 者：高知商業高等学校 主幹教諭

質問事項：① 県立高等学校のうち、何校から申請があり
② いくつかのプロジェクトが採択され
③ その取り組みの具体的な内容はどのようなものか

回 答：今年度の県立学校については 高等学校6校、計7プロジェクト
特別支援学校1校、計1プロジェクトの申請があり、全てクラウドファンディング
（READY FOR 株式会社）を実施しました。

各校のプロジェクトについては、下の県 HP からご確認ください。

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024071200099/>

掲載内容：窪川高等学校—オープンカフェプロジェクト（未達成）
高知小津高等学校—ライフル部強化プロジェクト（未達成）
高知東工業高等学校—韓国柳韓工業高等学校と国際交流（未達成）
四万十高等学校—ソフトボール部入学者・部員増を目指す（成立）
宿毛高等学校—早稲田大学派遣事業（未達成）
宿毛高等学校—相撲部名門復活へ（未達成）
中村高等学校—陸上部目指せ全国！目指せ世界！（未達成）
盲学校—未来の子どもたちを育成・応援したい（未達成）
そ の 他：私立学校4校、計6プロジェクトは全て達成（成立）

4 外部機関等との連携

(1) 福岡県立糸島高等学校との情報交換

日 時： 令和6年7月24日（水）9：30～12：30

場 所： 高知商業高等学校 校長室

訪 問 者： 福岡県立糸島高等学校 研究開発課長 佐々木 修一郎 様

日 程： 9：30～ 来校

本校の資料冊子等お渡し

学校長あいさつ

学校紹介動画

～12：30 意見交換



(2) 令和6年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業」創造的教育方法実践プログラム 九州・四国の研究指定校オンライン交流会

日時： 令和6年9月3日（火）14:00～16:00

形式： オンライン（Google Meet）

※ ホスト校は福岡県立系島高等学校

参加者： 11名

（学校名五十音順）

福岡県立系島高等学校	副校長	井上 功一 様
	研修開発課長	教諭 佐々木 修一郎 様
	研究開発課	教諭 天本 美穂 様
佐賀県立伊万里実業高等学校	主幹教諭	山崎 俊明 様
	コーディネータ・外部講師	坂口 憲一 様
宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校	研究調査部主任/教育DX推進チーム	教諭 上田 聖矢 様
	教務主任	教諭 猿渡 康介 様
	研究調査部	教諭 鈴木 圭介 様
	コーディネータ	吉村 優 様
熊本県立人吉高等学校	教諭	岩屋 龍太郎 様
高知商業高等学校	主幹教諭	三嶋 香世

会次第：(1) 自己紹介

(2) 各学校の取り組み紹介（各学校10分程度）

(3) 意見交流（各学校の取組に対する質疑応答や相談など）

概要：① 本事業終了後、何を残して何を残さないのか、各校の取組に違いがあるなかハード面・ソフト面で残っていくと考えられるものについて意見交換を行った。

② 文理融合，STEAM 教育についてホスト校から問いがあり，探究を深めている五ヶ瀬中等教育学校からは生徒に自由に選択させる柔軟性は持たせつつ，教職員の人数や時間割等可能な範囲内で実施していると情報提供いただいた。

③ コーディネータとの連携を含め各校の実施体制やコーディネータ配置に係る予算の確保について共有した。



(3) 渋谷区産業観光文化庁産業観光課との連携 I

日 時： 令和6年9月25日(水) 14:00~14:30

場 所： 渋谷区役所8階802会議室

参 加 者： 4名

渋谷区産業観光文化庁 産業観光課長 加藤 博是 様

産業観光課 観光振興主査 鈴木 七瀬 様

高知商業高等学校 主幹教諭 三嶋 香世

ライセンスコース長 教諭 山岡 純平

概 要：(1) 自己紹介

(2) 本校ライセンスコースの取り組み紹介(5分程度)

(3) 修学旅行(東京企業研修)に係るご相談(○高知市, ●渋谷区)

○ 11月14日班別企業研修を実施。生徒は18班(1班5~6名)に分かれ、各班午前1社・午後1社を訪問予定。

○ 世の中の困りごとの解決に取り組まれている経営者やクリエイターの方に企業訪問の受け入れをご依頼できないか。

● 渋谷区グローバル拠点都市推進課(スタートアップ企業を支援している部署)に相談してご連絡くださるとのこと。

● 10月2日渋谷区よりメールあり、企業訪問を前向きに検討いただける起業家の方とオンラインでの打合せを提案していただく。



(4) 令和6年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業」指定校発表会

日 時： 令和6年9月25日（木）10:00～16:00

場 所： 文部科学省 旧文部省庁舎6階第2講堂（東京都千代田区霞が関3-2-2）

参 加 者： 3名

高知商業高等学校 主幹教諭 三嶋 香世
ライセンスコース長 教諭 山岡 純平
情報マネジメント科 教諭 川崎 愛

会 次 第：(1) 事例発表

- ① 学校法人信愛学園 浜松学芸高等学校（静岡県）
- ② 和歌山県立串本古座高等学校
- ③ 広島市立美鈴が丘高等学校
- ④ 鹿児島県立種子島中央高等学校

(2) グループディスカッション

- ① 探究的な学びの充実に向けた取組について
 - ② 指定終了後の取組継続や関係機関等との連絡協力体制維持について
- (3) 参加者交流会（各学校の取組に対する質疑応答や相談など）

報告事項： 令和4年度普通科改変支援事業指定校から19校、令和5年度同指定校から9校、令和6年度同指定校から7校、創造的教育方法実践プログラム指定校は本校を含め3校、計38校に関わる管理機関・指定校の教職員・コーディネータ98名が参加するなか、4校の事例発表と2つのテーマをもとにグループディスカッションで協議を行った。

各校ともに「探究コース」や「探究科」の新設や学科改編などだけでなく、そこで育成する生徒像に合わせた高校入試改革（最高得点教科の検査点を4倍とする傾斜配点を取り入れ、さらに学力検査・調査書重視から「自己表現」を重視した配点に変更する。特色化選抜入試としてコミュニケーション重視型選抜や評定重視型選抜を取り入れるなど）も併せて実施をされている学校があることがわかった。

また、各校の実践で整理されていた主な内容は次の通りである。

- ・ 新しいことに取組むには小さくスタートすること。
- ・ 校内で取組を進めるにあたっては属人化させずスタッフ（チーム担任制）で協働しやすい環境（授業コマ内にミーティングの時間を確保、職員室の環境整備による共有機会の創出、アクティブラーニングに適したICT環境と教室の整備）をつくること。
- ・ 校内での共有は会議だけではなく、教員研修を目的として実施すること。
- ・ 3年間の系統的な学びを構築すること。

- ・ 評価については「Ai GROW」「高校魅力化評価システム」や相互ルーブリック（自己評価と他者評価）などにより非認知能力の伸長を見取れるように工夫し、実施評価を生徒個人が自己成長の機会に結び付けるよう三者面談等で保護者と生徒にフィードバックを行うこと。
- ・ 探究創造の時間の確保としては、金曜日の午後と隔週土曜日の午前などまとまった時間を設定し、全ての教職員が教科外のリソースを活用しゼミを担当する。
- ・ 探究活動とつながる修学旅行テーマは「地方における観光のメリットとデメリット」とし事前学習は極限まで実施せず、現地でのフィールドワークでの気づきから調査結果をまとめる事後学習（レポート作成等）を重視する。
- ・ 生徒個別の「マイストーリー」構築のため学校全体でプログラム化した支援が重要。
- ・ 「探究」中心の学校づくりをするにあたっては、教科授業は原則標準単位にし、余白を生み生徒に選択の余地を与える。

出張者の意見等：○ 事例発表では浜松学芸高等学校の取組が印象的だった。探究学習では60名以上になると活動支援が困難になるため、科学情報と地域創造の2クラスに絞っていた。また探究にもステップがあるということで、段階的なプロジェクトを構成できていた。

評価システムとして多くの学校が取り組んでいたのは生徒の思考力をスコア化する「Ai GROW」である。本校では評価の部分がまだまだ開発途上であると感じている。他校の先行事例を参考に、どのように測るかを考えていきたい。

グループディスカッションで話題にあがったのは、「生徒の本当の主体性をどのように引き出すか」であった。ほとんどの学校が1年次にグループプロジェクトを行い、2年次以降はすべて個人プロジェクトへと切り替えて詰めていく手段を選んでいた。さらに、教員を専門分野に分け、ゼミナール形式で授業を行っていた。教員の生徒への寄り添い方も「応援型」や「助言型」、「併走型」など、生徒が教員を選べるような仕組みを考えている学校もあった。

ライセンスコースとして、規模の大きい状況で質を向上させていくという最大の課題があるので、さらなる工夫のために大変参考になった。

- 普通科でも高校改革が進んでいく中で、専門高校としてどのように授業改革を行っていくか真剣に議論し実践していかなければならないと危機感も感じた。

各学校の取組を聴く中で本校に足りないものは、教員がチームで授業を創っていくことであると感じた。学科コースごとに授業展開

をしている現在の状況では、指導する教員の手が不足しており、十分な指導が行き届いていない。学科コースや教科の垣根を超えた授業展開にしていく必要があると感じた。

また、創造的教育方法実践プログラム事業終了後の取組も考えていかなければならない。大学生のメンター導入や社会福祉協議会、中小企業同友会等との連携をしている学校も多くあり、事例等も聞くことができたので、本校でも導入ができるか考えていきたい。

- 広島市立美鈴が丘高等学校の発表で、生徒と教員による学校改編検討組織「未来会議」や先進校への生徒による視察（終日授業参加）から自分たちの「当たり前」を疑い、もう一度考えるという視点が示された。

今回、ライセンスコース長と情報マネジメント科教諭、主幹教諭の3名でともに発表会に参加する機会をいただき、それぞれの実務の中で感じていた問題が全国に共通していることであり、解決に向けて自治体や管理機関、企業とともに連携協働していくプロセスについて情報収集できた。

高知商業の「当たり前」を疑い、自分たちの手でより良い場所にする経験を重ね、市立1校の本校生徒がこれからも地域に求められる人材となるよう、全教職員でともに学びを更新していきたい。



(5) 『人吉・球磨ライジング構想』発表会及び報告会

日 時： 令和6年11月8日（金）9：00～16：00（8：30～受付）

会 場： 熊本県立人吉高等学校（熊本県人吉市北泉田町 350 番地）

参 加 者： 1 名

高知商業高等学校 教諭 楠瀬 教仁

会 次 第：(1) 発表会

【第一部 教 室 発 表】 9：00～9：40 各教室

【第二部 ステージ発表】 10：00～12：30 第一体育館

(2) 報告会

【第三部 事 業 報 告 会】 13：30～16：00 視聴覚室

報告事項： 人吉高校は本校と同じく令和4年度から文部科学省の新時代に対応した高等学校改革推進事業の研究指定を受け、今年度が指定の最終年度で中間発表・報告会が実施された。探究活動を1・2年生のプロジェクトで行っており、第一部では各教室でテーマごとに分かれ、発表を行った。第二部では、2年生から選抜された5グループが体育館で来賓、コーディネータ、全校生徒の前で発表を行い、聴講の生徒から質問が多く、発表内容を良くするための意見が飛び交っており、学校全体として探究活動が浸透していることが分かった。

第三部 事業報告会の内容は次の通りである。

人吉・球磨は、九州山地の盆地に位置し、人口減や地域の活性化等の課題に直面している。さらに令和2年7月豪雨で甚大な被害を受けた。本構想では、地域課題の解決に向けた探究活動等において、大学や研究機関、企業等との連携に向けた新たな教育資源の確保に関する研究をし、有効な教育方法の開発を行うことを目的としている。1年目は試行錯誤しながら、インプットに重点を置き、コンソーシアム委員や地域の方の講演活動を中心に行った。2年目は、1年目の反省を生かし、地域外フィールドワークの計画を立て、活動の幅を広げていった。特にコーディネータの活用では学校のニーズに見合った外部人材の発掘、依頼、連絡調整等のコーディネータ本来の業務のみならず、週1回来校し、授業にも入ってもらい、総合的な探究の時間の内容を外部の視点で評価してもらい、それが改善につながり、新たな取組のアイディアのもとになっている。研究活動として、熊本県立大学のオンライン特別講座「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」を活用しており、1年次に受講し、流域圏の文化・歴史・環境など幅広いテーマから地域の魅力や課題を学ぶことができ、人吉・球磨地域を学術的に研究する価値のある地域であるという気づきを与える契機となっている一方で、各自が自宅等で受講するため、生徒の負担感の懸念や意欲的に取り組む生徒と受け身で受講している生徒の差が大きく感じられ

ることが課題である。探究活動の進捗状況の把握や生徒との対話のために1年次から担任・副担任との数回の面談を行い、内容のブラッシュアップおよび発表時の相互評価は、2年次でのテーマ別探究活動の前段階として有効である。

出張者の意見等： 普通科高校が創造的教育方法実践プログラム指定校として活動しており、カリキュラムの関係で週1回の総合的な探究の時間のみで実践をしている環境にあるが、生徒たちの発表は内容に対して、自分の言葉で話しており、世界の津波サミットに参加したグループは英語で発表するなど、大人たちの指示で実践しているのではなく、生徒自身が主体的に学ぶことができていると感じた。また、探究活動の手引書を作成し、インタビュー調査・取材の方法・アポの取り方など探究活動のルールが校内で明確になっていることや生徒との担任・副担任との面談を年に3～4回行っており、生徒に寄り添いながら、生徒と一緒に探究活動をしている。

今後の課題として、本校でも生徒との面談を数回行い、教職員がともに探究活動ができるようにしていくなど、探究活動の時の環境を整えていく、教職員の在り方を見直す必要があると感じた。



(6) 渋谷区産業観光文化部産業観光課との連携 2

① 総合マネジメント科ライセンスコース 2 年生修学旅行における渋谷区企業訪問

日 時： 令和 6 年 11 月 14 日（木）10:00～11:00

場 所： 渋谷ブリッジセミナールーム

訪問先： 株式会社 NIJIN 代表取締役 星野 達郎 様

渋谷区産業観光文化部 主任 中屋 力 様

参加者： 高知商業高等学校 教諭 山岡 純平

総合マネジメント科ライセンスコース 2 年生 生徒 12 名

概 要：○ アントレプレナーシップ教育の一環で、東京の企業を訪問し、事業内容や企業理念、キャリアについてお話を伺うことを目的に実施。渋谷区のご紹介により（株）NIJIN 様をご訪問させていただく。

○ 訪問では自己紹介と事業の概要説明と、メタバース空間授業体験、生徒からの質問や感想に対する応答を行っていただいた。（株）NIJIN は「教育から国を照らす」を理念に掲げ、日本の教育課題を根本から解決することを目指す教育企業である。不登校の子どもたちのためのオルタナティブスクールとして、メタバース空間を校舎とし、日本全国の子どもたちがオンラインで学ぶことができる。

○ 事業の概要説明では、生徒たちも真剣にメモを取りながら食い入るように説明を聞いていた。特に、不登校生徒に問題があるのではなく、その生徒がおかれている環境や制度に問題があるのではないかという部分に強く共感をしていた。

○ メタバース空間授業体験では、実際にメタバース空間にアバターを作成し入室させていただいた。登校している空間上の子ともともカメラを使って交流し、会話を楽しむことができた。本校生徒からの感想では、「辛い思いをしているはずなのに、楽しそうに体育をやっていて驚いた。」「私の親戚の不登校になっている子どもに教えてあげたい。」「自分も過去に辛い思いをしていたので、学校に行けない人の気持ちが分かるからこそ、自分の個性を出せるところが良い」等、自分自身の過去と照らし合わせた生徒もあり、数名は涙ぐみながら星野様へ感謝の気持ちを伝えて訪問が終了した。

○ 今回の訪問では生徒たちはアントレプレナーとして教員を辞めて独立した星野様の挑戦と、学校という当たり前を疑ったという姿勢に感銘を受け、「固定概念を疑うことが新しいビジネスを作るうえで大切」と感じており、最も身近な学校をビジネスとして展開したお話を伺えたことで、よりビジネスの世界を身近に感じる事ができた訪問であった。



② 社会マネジメント科2年生修学旅行における渋谷区企業訪問

日 時： 令和6年11月14日（木）13:00～15:00

場 所： 東急桜丘町ビル

訪問先： 東急株式会社 都市開発本部 渋谷開発事業部 開発計画グループ
総括担当 久我 匠 様 伊藤 由理香 様

参加者： 社会マネジメント科国際コース2年生 生徒6名

担 当： 高知商業高等学校 教諭 中山 智之（※ 引率無し）

概 要：○ 修学旅行の企業訪問の一環で、渋谷区からご紹介を受け、渋谷の街づくりに取り組んでいる東急株式会社様にご訪問させていただく。

○ 「いつ行っても何度行っても、何か楽しいコトがある街で、いつでも、誰でも楽しいコトを起こせる街」日本一訪れたい街づくりをめざしている。外国から日本に訪れる人が増えるなかで、どうすれば一人ひとりが充実した生活を送れるのかを考えながら、都市開発を行っていることを学んだ。

○ 生徒たちは、この訪問を通じて「一番大切なことは、課題を見つけて、課題を解決するための解決策を考えることが重要である。」と気づき、これからの高校生活で取り組む、プロジェクト活動に生かしていきたいと考えている。

